



おまち

Vol.
137

2023. 7. 1 (隔月1回1日発行) 編集発行：群馬県県土整備部都市計画課企画推進係



としまどりの防災公園(愛称IKE・SUNPARK)
手前の芝生広場は災害時は一時避難所やヘリポート等としても機能



災害時には炊き出し等も可能な、
スタートアップ事業支援の
カフェ「KOTO-PORT」



実は群馬生まれの電気バス
「IKEBUS」(→p5)



フェーズフリー PHASE FREE

- 備えない防災!?! 「フェーズフリー」という新たな発想
～(一社)フェーズフリー協会 代表理事 佐藤唯行様にお伺いしました!～
- 「使われ活きる防災公園」CMでもおなじみIKE・SUNPARK(イケ・サンパーク)
～フェーズフリーの先進事例を取材してきました～
- IKE・SUNPARKだけじゃない!! 豊島区の公園まちづくりの取組み

- 【まちづくりイベント情報】**
- 県内で行われるイベントの紹介
 - マーチの掲示板 おもしろまちうちライブラリー
 - まち'sクリの独り言





備えない防災!?! 「フェーズフリー」という新たな発想

～(一社)フェーズフリー協会 代表理事 佐藤唯行様にお伺いしました!～

群馬県 県土整備部 都市計画課

■ はじめに

令和5年度は県内各市町村で防災ガイドラインに従う立地適正化計画の見直しなどもあり、防災は都市計画の分野でもホットなテーマになっています。

そうした中、災害に新たな視点から向き合った「フェーズフリー」という発想が、昨今、国内でも広がりを見せています。その広がりには既に災害対策やまちづくりの領域を飛び越え、今や教育分野にまで及んでいます。

今回、近い将来まちづくりでは必須の概念となりうる「フェーズフリー」について、街路樹の緑が眩しい初夏の雰囲気漂う5月某日、一般社団法人フェーズフリー協会を訪問し、代表理事の佐藤 唯行(さとう ただゆき)様にお話を伺いました。



フェーズフリー協会
代表理事 佐藤唯行様

■ 取材内容【文章中、Qは都市計画課、Aは佐藤様】

Q：フェーズフリーとは？

A：横文字で捉えてしまうとわかりにくいのですが、「いつも」と「もしも」の垣根がないということ。非常時と日常時といった段階(フェーズ)から自由(フリー)であるということ。

日常時と非常時、どちらでも私たちが安心して豊かに暮らせる社会を作っていこうという概念がフェーズフリーです。

Q：つまり、フェーズフリーとは、「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン (以下UD)」と同じような概念でしょうか。何か違いはありますか？

A：バリアフリーやUDは「人の状態」(例：健常者と要援護者)をフリーにしています。対してフェーズフリーは「社会の状態」をフリーに考えています。

もう少し踏み込んで言うと「普段の私たちの暮らしを豊かにしているものが、もしもの時に、私たちの生活や命を守れるようにデザインされていれば良いよね」ということなんです。

この言葉でわかるように、日常の私達の暮らしを豊かにして、その延長線上に、非常時に役に立つものを考えたいという事です。

更に言えば、図1はフェーズフリーとUDの相関図ですが、実はフェーズフリーはこの図の斜めのラインを狙ったところもあります。

災害時は、例えば怪我をしたり視力を失ってしまったり等、誰もが要援護者になってしまう可能性のある状況になります。防災の政策は災害時、要援護者の為といわれますが、上記のとおり結局はすべての人達が要援護者になる可能性がある訳です。だからこそ図1の斜めのライン、つまり日常時の健常者にも非常時の要援護者にも役に立つようにデザインされている事が、本当に支援が必要な人にも役に立っていくというのが究極的なフェーズフリーになるのではとっております。

Q：防災におけるフェーズフリーについて教えてください。

A：フェーズフリーという防災に関わる新しい考え方は、2014年頃から日本で始まりました。最初は「繰り返す災害を解決したい」というところからスタートしたんですよ。

安心安全な社会を作っていこうというその取り組み自体は防災と同じで、だから目的は一緒なんだけど、フェーズフリーと防災っていうのは、何が違うかっていうと『そのアプローチと対象が違う』っていうことなんです。

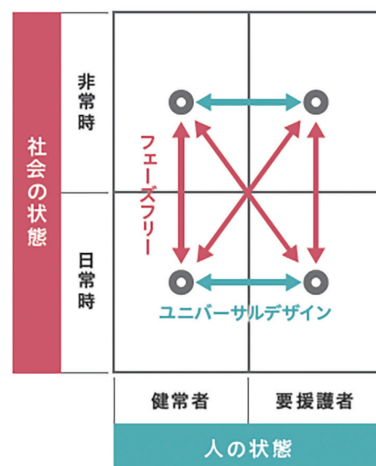
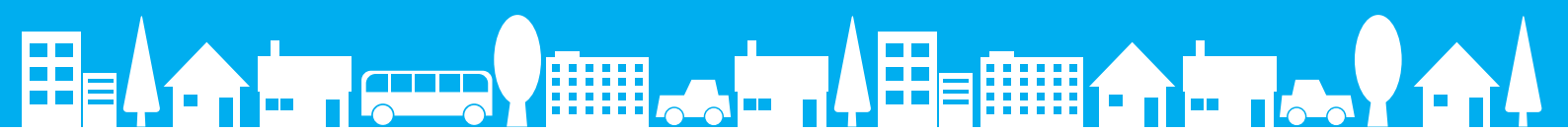


図1 フェーズフリーとUDとの相関図
※図1～4提供：一般社団法人 フェーズフリー協会





防災ってというのはどういったアプローチをしてるかというと、繰り返される災害から安心安全な社会を作っていくために、備えてもらうということを前提として、社会を作っていくということなんですよ。

多分、群馬県の皆さんも日本中の皆さんも、世界中の人達も「防災はするべきだ」「災害から自分の大切な家族の生活、命を守りたい」って、ちゃんと思ってる。

にもかかわらず、例えば、今この瞬間群馬で震度7の地震が発生したときに、自分と家族を守るための備えが十分ですかって言われても、十分備えていると答えられる人はほとんどいない。

防災はするべきだというみんなの思いと、備えるっていうのがイコールになっていないんですよ。

繰り返す災害は解決したいけど、備えることは難しい。この相矛盾するような、2つを同時に抱えてしまってるのが、現状なんですよ。

つまり、行政から「災害に備えましょう」と提案するだけでは住民のことを守れない。

その代わりに、備えてもらうことが難しいのであれば、普段着ているその服だとか、使ってるボールペンだとか、利用してる携帯電話だとか、更に、普段遊んでる公園だとか、家だとか、町のあり方…普段私達の生活を豊かにし快適に便利にしているものが、非常時にも役に立ってしまったら、結果として、皆さんのことを守ることができるんじゃないだろうか、と。

日常的に使う便利なものや日常時の施策と、他方では非常時に役立つものや様々な施策や設備があって、今ま

では別々のものとして分けて考えられていた。それを分けずに、日常時も非常時も役に立つようにしよう、という概念が社会に定着したら、いろいろ変わってくるんじゃないか、ということです。

つまり、みんなが普段の生活で利用してる商品だとかサービスとか施設が、非常時に生活や命を守るようにデザインされていけば、結果として勝手に守れてしまう、という訳ですよ。

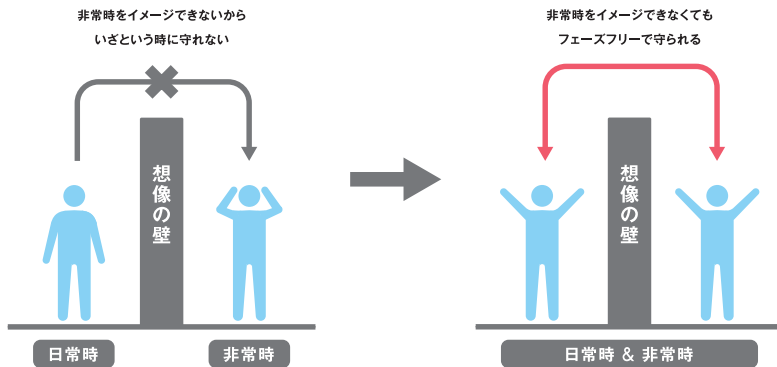


図2 「日常時」と「非常時」という2つのフェーズからフリーになってみる。

Q：フェーズフリーが取り入れられた事例などにはどんなものがありますか？

A：例えばハイブリッド車やPHV車。これらは、燃費も良くて環境にも優しくお財布に優しい、すなわちエコなんですよ。

これが、2019年の千葉付近に上陸した台風15号やその前年の北海道のブラックアウトの時に凄く話題になりましたけども、一般のガソリン車っていうのは当然電源供給なんかできないですが、電気自動車っていうのは、普段のこのエコを支えるモーターとバッテリーによって、非常時や屋外でも電源として活用することができるんですよ。だからすごく助かったっていう人が多かったんですよ。

このPHV車って防災用の車両ではないですよ。私達の生活を豊かに、便利にお得にしている車ですよ。

これってすごく取り組みやすい訳ですよ。

非常用発電機という提案は確かに非常時に役に立つんだけど、それってなかなか普及しづらいんですよ。

それよりは、日常のメリットがある中で非常時のことも提案したら、あっという間に普及してしまうってことなんですよ。

Q：市町村が参考となるフェーズフリーの事例について教えてください。

A：「豊島区立としまみどりの防災公園(愛称 イケ・サンパーク)」がとても参考になる先進的な事例です。(詳細は、特集2で取り扱います。)

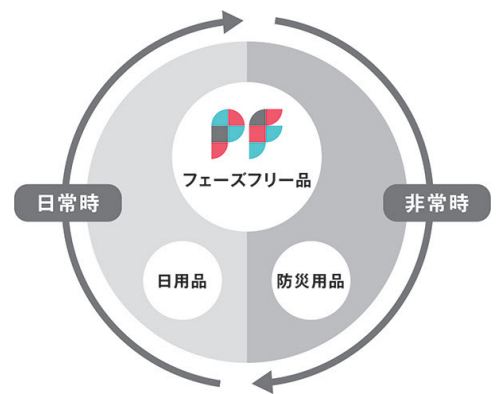
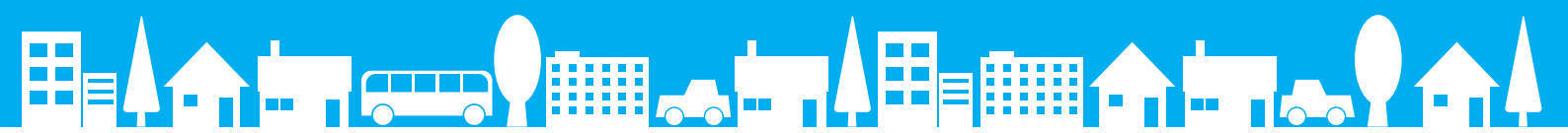


図3 いつもの生活で便利、もしもの時には役に立つ





あと、徳島県の「道の駅くるくる なると」も同様に参考になる事例です。

例えば、子供たちが滑って遊べる坂は、災害の時は高齢者や車椅子の人が安全に避難しやすいスロープになります。

今までは、国の補助金で津波避難タワーみたいなものを設置していましたが、ただ、設置した後の維持整備は自治体がやらなきゃいけない。それが難しいんですよ。

作るのはいいんだけどそれをずっと維持するのも難しいし、普段使わないから結局住民はどこにあるかわからないし、いざという時にそこに本当に逃げてくれるのかどうかもわからない。

そこで、自治体さんが道の駅をフェーズフリー、つまり普段から地域の人達が集まってる場所が非常時に役立つように進めた。

道の駅はにぎわいを生み出す場所だから自動車もたくさん停められて中に商業施設があって、家族連れも多いから、そこにスロープで、誰でも上がってすべり台みたいになって遊べるようにすることで、普段は子供達や家族連れの人たちが遊べる広場にできる。そして、津波や災害時には、物産売り場が、災害用の備蓄の食料庫になります。

災害のためだけに備蓄すると、消費期限の入れ替えなど費用がかかる。

それだったらこれを避難時、災害時の非常食に提供する旨を条件として協定を結ぶ事によって、大量の食料備蓄を一銭もお金をかけずに実現してしまう。

また、鳴門市さんは、フェーズフリーをハード面だけではなく、ソフトの部分として、教育分野でも取り組みを行っています。

例えば算数の授業で、津波の速さを子供たちに計算をさせてみたり。

今までだとキリンの走る速さ等で教えていましたが、津波と自分達の走る速さで比較したりすると、どれだけ速いかってというのがわかる訳ですね。

普段の学習に災害の視点を取り入れることで、子供たちが、災害をより自分自身の事としてとらえられる効果が期待できるといいます。

速さの事もわかって、津波の速さもわかって一石二鳥。自分事なので夢中になって学ぶ。

日常の教育の質を上げながら、非常時の子供達の生活も守る。すごく教育現場もやりやすいそうですね。避難訓練だとか、特別な先生達の負担を強いてやっていないし、特別なコストもかからない。全然負担になってないので行政としても取り組みやすい。

今、南海トラフ地震に備え、鳴門市内すべての小中学校で、フェーズフリーの導入を進めているとの事です。

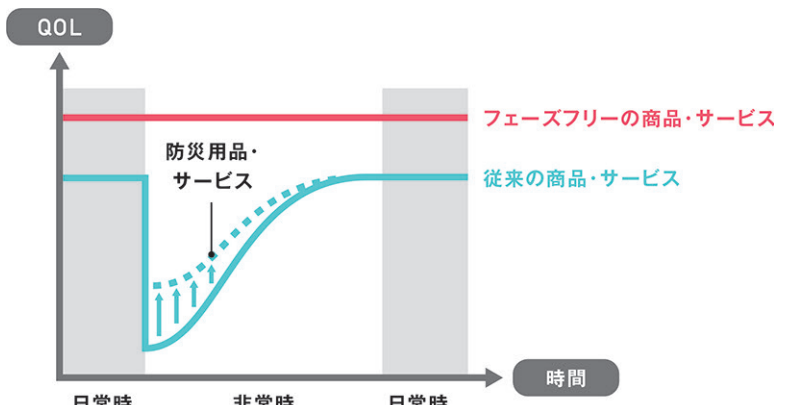


図4 “いつも”も“もしも”ももっと心地よくしてくれる不思議



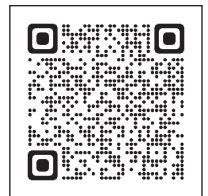
終始和やかにお答えいただきました！

要は、どれだけ住民の人達が普段から喜んでくれて、その先に住民が想像できなかった、非常時に生活や命をどれだけ守れるものを作るか。

限られた危機管理予算の中で、それぞれの施策を、それぞれ少しずつ日常と非常時の視点を入れながら社会基盤をデザインしていくことによって、総体としての大きな力を総合力として、災害に強いまちづくり、また同時に、日常の豊かさ目指していければ、と思います。

——フェーズフリーについてたくさんの事例を交えながらお話を聞かせていただきました。ありがとうございました！

フェーズフリー総合サイト：<https://phasefree.net/>





「使われ活きる防災公園」CMでもおなじみ IKE・SUNPARK(イケ・サンパーク)

～フェーズフリーの先進事例を取材してきました～

群馬県 県土整備部 都市計画課・都市整備課

■ はじめに

2023年に都市公園は制度制定150周年を迎えました。その150年という、長い年月の中で、都市公園は時代に合わせてそのあり方が変化し続けてきました。令和4年度、国交省のとりまとめた「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会」の中でも、都市公園新時代～公園が活きる、人につながる、まちが変わる～と銘打たれ、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指すとされています。

今回は、そんな「使われ活きる公園」の一例として、近年注目されているフェーズフリー公園である、IKE・SUNPARK(正式名称：としまみどりの防災公園)を取材してきました。



家族連れ等で賑わうIKE・SUNPARK

■ IKE・SUNPARK(イケ・サンパーク)について

IKE・SUNPARKは正式名称を「としまみどりの防災公園」と言い、豊島区東池袋に位置し、西側は池袋副都心、東側は木造住宅地域に隣接する、約3.2ha(32,000㎡)の公園です。この公園は、造幣局跡地に設置されており、造幣局の移転要望や防災公園の設置要望にいたるまで、地元住民の主導で行われました。そのため、整備手法も特徴的であり、設計及び施工の段階から、目指す将来像にふさわしい公園のあり方を反映させるため、公園の設計、施工、管理運営の一体型、事業者のコンソーシアムを組織して事業者を選定しています。

IKE・SUNPARKは単なる広場としての公園ではなく、3つのテーマ「CIRCULARITY(公園を起点に循環を生む)」「COMMUNITY(多様性を楽しめるコミュニティーをつくる)」「STARTUP(小商いや新しいチャレンジを応援する)」を設けて、これらに関する活動を行い、新しいカタチの公園となることを目指しています。

また、これらに「防災公園」としての機能を加えることで、災害に強く文化と賑わいを創出する活力ある市街地の形成を図っています。「使われ活きる防災公園」としてフェーズフリーを体現しているその取り組みについて見ていきましょう。

■ 平常時の賑わい創出

平常時の賑わい創出につながっている要因である、区内最大の芝生広場は、普段は遊具で遊ぶ子供連れや、芝生でくつろぐ人々で賑わいを見せています。事業のスタートアップ支援のために設置されている「KOTO-PORT」では多様な飲食物が提供され、Park-PFIで設置されているカフェは、平日のランチ時でありながら、満席という盛況ぶりでした。

また、非常時には電源として活躍する電気バスのIKEBUSも、平常時には快適でおしゃれな公共交通機関として近隣住民に愛される存在でした。



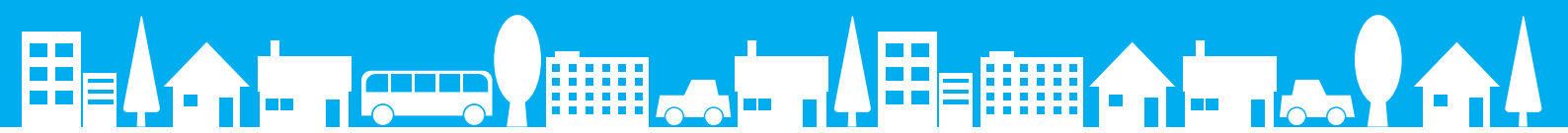
賑わいを見せる「KOTO-PORT」



カラフルでSNS映え確実な
IKEBUS(イケバス)のシート



IKEBUSのベース車両は桐生市の
企業・シンクトゥギャザー製のEVバス



■ 災害時への備え

平常時に賑わいを見せているIKE・SUNPARKは、災害時には防災公園としての真価を発揮します。平常時に賑わいを見せていた芝生広場は、一時避難場所や救援物資の搬入所、また、ヘリポートとして多様な機能を発揮します。

平常時には憩いの場所として機能する「こもれびの森」は、防災樹林として、火災の延焼を防ぐ機能を有しています。これは、近隣に日本有数の木造住宅密集地域があることに配慮したものです。

防災倉庫や災害用トイレも整備されており、防災倉庫は、平常時にはファーマーズマーケットで販売する生鮮食品の保管場所としても活用されています。



災害時には木造住宅密集地域への延焼を防ぐ防災樹林となる「こもれびの森」



隣接するインクルーシブ公園「としまキッズパーク」

■ としまキッズパーク

IKE・SUNPARKに隣接して整備されている「としまキッズパーク」は、障がいのある子どもない子ども一緒に遊べる「インクルーシブ公園」の先駆けとも言われている、予約制で利用できる公園です。

インクルーシブ公園とは、障がいがある子ども、ない子ども誰もが一緒に遊ぶことができる遊具や施設がある公園です。

公園内は、常に数名の職員が、事故などが起きないように監視してくれています。

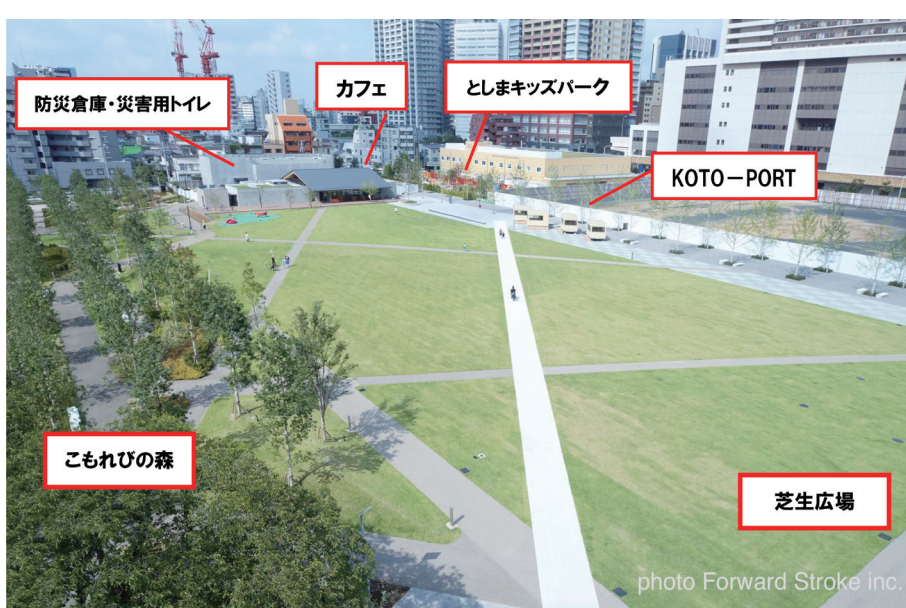
安全に楽しく誰もが遊べる環境が整っていることから、親も安心して遊ばせることができるため、取材当日も予約は全てうまっているとのことで、多くの子供連れで賑わっていました。

■ 終わりに

IKE・SUNPARKの真に優れているところは、平常時には放置されがちな防災公園を、フェーズフリーの概念を取り入れて、平常時にも非常時にも魅力的な公園として整備され、令和2年に全面開園してからも、類いまれなる工夫によって、持続的に魅力を高めているところにあると感じました。

非常に魅力的な公園ですが、この「おっ!!まっちい〜」の少ない紙面では、その魅力を伝えきることはできませんので、皆様も機会があったら、是非ともIKE・SUNPARKにお立ち寄りいただき、その素晴らしさを実感してみてください!!

——取材にあたっては、豊島区都市整備部公園緑地課のご担当者様並びに管理事務所の村田様に大変お世話になりました。ご協力ありがとうございました。



としまみどりの防災公園
(愛称: IKE・SUNPARK)
所在地 東京都豊島区東池袋4丁目42番
開園時間 5時~22時
公式HP <https://ikesunpark.jp>



周辺googleマップ



IKE・SUNPARK公式HP

アクセス ・東京メトロ有楽町線「東池袋駅」下車6番出口から徒歩5分
・IKEBUS(A・Bルート)「IKE・SUNPARK」下車徒歩0分
・JR「池袋駅」東口から徒歩15分
他





IKE・SUNPARKだけじゃない!! 豊島区の公園まちづくりの取組み

群馬県 県土整備部 都市計画課

フェーズフリーの先進事例として、IKE・SUNPARKを取材したところ、IKE・SUNPARKにとどまらない、まちを変えるための素晴らしい取組みが行われていました

この取組みを是非とも皆様に届けたかったため、急遽特集を組ませていただきました！

■ 特色ある4つの公園

豊島区では、23区で唯一消滅可能性都市として選ばれたことをきっかけとして、様々なまちを変えるための取組みを実施していますが、その中の一つとして、住民からのまちづくりの機運の高まりなども受けて、4つの公園整備を核としたまちづくりに力を入れており、注目を浴びています。

豊島区公園まちづくりのはじまりとなったのが、IKE・SUNPARKのモデルともなっている南池袋公園です。

大都会に突然芝生の広がる南池袋公園は、いつでも賑わいに溢れる豊島区でも指折りの人気スポットです。

Park-PFI制度のひな形としても取り上げられるその整備手法は、多くの自治体から注目され続けています。

その地域性からアニメ文化と共生している中池袋公園やグローバルリングが特徴的な芸術と調和する池袋西口公園など、地域の特色を上手く昇華させて整備された公園となっており、豊島区の知恵と工夫が感じられます。

今では、東京でも最も注目されるスポットとして進化した豊島区ですが、観光地としてだけでなく、我々まちづくり関係者のお手本となるエリアになっているため、是非とも勉強も兼ねて訪れてみてください。



南池袋公園につながる街路の一部公園周辺では、魅力的なパブリックスペースがいくつも見受けられた。

豊島区公園まちづくり



—Park-PFI（公募設置管理制度）とは—

都市公園において飲食店、売店などの公園施設（公募対象公園施設）の設置又は管理を行う民間事業者公募により選定する手続きのことで、この制度を利用することで、特例措置として公園内にカフェといった収益施設を設置できるもの。

※新型コロナウイルスの影響により開催中止、延期の場合があります。 予めご了承ください。

第77回草津温泉感謝祭

土用丑の日、丑の刻に入湯し、無病息災を願った習わしが由来。「女神降臨」や「女神昇天」は華やかな中にも厳かな雰囲気漂う。

■8月1日(火)～2日(水)
■草津温泉湯畑他

【お問い合わせ先】
草津温泉観光協会
Tel 0279-88-0800




夏休みお楽しみ昆虫採集

カブト虫…何匹とれるかな。草津温泉の自然の中でカブト虫採集。お子様に「あの」わくわくと夏休みの楽しい思い出をどうぞ。

■8月7日(月)10:00～
■道の駅草津運動茶屋公園

【お問い合わせ先】
草津温泉観光協会
Tel 0279-88-0800



令和5年度 甘楽町花火大会

8月14日(月)に甘楽ふれあいの丘で開催される町商工会主催の夏祭りに合わせて、花火大会を開催します。

■8月14日(月)※雨天翌日 17:30～20:00
■甘楽ふれあいの丘

【お問い合わせ先】
甘楽町役場 産業課
商工観光係
Tel 0274-64-8320





大島火まつり

夏のお盆に行われる百八燈の行事で、毎年、その年にちなんだ文字を地元の人たちがまつり当日に決め、闇夜にその文字が浮かび上がります。

■8月16日(水)19:30から点火
■城山(大島地区)

【お問い合わせ先】
(一社)富岡市観光協会
Tel 0274-62-6001






富岡花火大会

大島火まつりと同時開催され、夏の夜空に約1,000発の花火が打ち上げられます。富岡合同庁舎駐車場から観覧することもできます。

■8月16日(水)19:45～20:15(予定)
■和合公園(打上げ場所)※関係者以外立入禁止

【お問い合わせ先】
(一社)富岡市観光協会
Tel 0274-62-6001

※7月上旬公開予定

町政施行55周年記念事業「第30回おうら祭り」

邑楽町の夏最大フェスティバル。特別イベントなど内容盛りだくさん。フィナーレは打上げ花火。夏の夜空を盛大に彩ります。

■8月20日(日)11:00～20:45(予定)
■おうら中央多目的広場

【お問い合わせ先】
邑楽町役場商工振興課(おうら祭り実行委員会事務局)
Tel 0276-47-5026




おしらせ


ぐんま「まちづくり」ビジョンシンポジウム

東京大学生産技術研究所の加藤孝明教授による基調講演のほか、まちづくり功労者表彰や県内の事例発表を行います。

参加には事前に申込みが必要です。

【日時】7月14日(金)13:45～16:00
【会場】昌賢学園まえばしホール小ホール(前橋市南町三丁目62-1)

【申込み・問い合わせ先】
群馬県都市計画課
Tel 027-226-3665

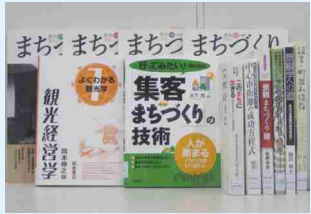




マーチの掲示板 おもしろまちうちライブラリー

「おもしろまちうちライブラリー」では県内市町村職員の方、まちづくり市民団体の皆さんをはじめ、まちづくりに興味・関心のある県民の方々へ、本と動画資料(DVD等)の貸し出しをしています。知識をつけることが発想力につながります。ぜひ「おもしろまちうちライブラリー」を、まちづくりの参考としてご利用ください。

また、まちづくりに関する本の購入リクエストも受け付けています。限られた予算内での事なので、すべてにお応えすることはできませんが、お気軽にご連絡ください。

●詳細やライブラリー蔵書一覧などは、
おもしろまちうちライブラリー 検索

帝京大学 経済学部 観光経営学科

Faculty of Economics Department of Tourism Management

幅広い教養、豊かな国際感覚、確かな専門知識と行動力をあわせ持つ人材を育成します。

- 観光産業を経済学、経営学の流れの中で学ぶ。
- 旅行業務取扱管理者資格取得に向けて、万全のフォロー体制。
- 実地で旅行業務が学べる「実習授業」が豊富。

2023年度 八王子キャンパスオープンキャンパス

| | | |
|-----------------|----------------|-------------|
| 7月15日(土)、16日(日) | 8月6日(日)、20日(日) | 開催時間 |
| 9月17日(日) | 2024年3月23日(土) | 10:00～15:00 |

※日程や内容が変更になることがあります。大学ホームページをご確認ください。

お問い合わせ先 **TEL : 0120-508-739** 〒192-0395 東京都八王子市大塚 359 URL: <https://www.teikyo-u.ac.jp/>

まち'sクリの独り言

今回の「おっ!!まっちい〜」は、新体制で本格稼働した初めてのものだから。今までの「おっ!!まっちい〜」との違いに気づいたクリか？

なんと今回から、「まーちい」が自ら取材してまちづくり情報を発信しているクリよ!! ビックリクリね!

これからも色々な取組みを取材して、皆様に届けていきたいクリよ。

取材依頼もお待ちしております。

これからの「おっ!!まっちい〜」も楽しみにしてクリ〜。

